

しが国際協力親善大使レポート

たがみ ふみや
田上 史也さん

隊次：2019年度1次隊

職種：青少年活動

派遣国：ネパール

自己紹介

皆さん初めまして！2019年度1次隊、青少年活動隊員としてネパールで活動しています田上史也と申します。まず初めに、青年海外協力隊の一員として滋賀県OB会発行『協力のなかの青春』に私の文章を掲載される事とても嬉しく思います。この様に素晴らしい経験が出来るのも私が協力隊を志した際、相談に乗りいつも陰ながら応援して下さいった前滋賀県国際協力推進員の山本康夫さんのお陰です。本当に有難うございました。

さて、私は協力隊に参加するまで京都府の大学に通う大学生でした。大学へ入学した当初は卒業後教員として働いていると考えていました。しかし、4年間の大学生活を過ごす中で沢山の出会いに恵まれこの様な道に進んでいます。特に大学4年間欠かさずに通った宮城県東松島市の小学校への学習ボランティアで出逢った子供達との関係が私の考えを変えるきっかけになりました。初めて東松島市へ訪れた時、震災で被害にあった事を感じさせないくらい元気に校庭を駆け回る子供達の姿を見て少し驚きました。しかし、ある授業で『将来の夢』を書く取り組みを課せられた時に『毎日安心してご飯が食べられますように』や『家族と一緒に過ごしたい』と書いている姿を見ました。凄く大切な事だなと思う反面、未来を担う彼らに少しでも色々な世界を見てもらい、夢のきっかけに慣れたらとそこから自身で海外や国内の活動を積極的に行いました。そこで学び、感じた事を手紙やボランティアで訪れた際、積極的に伝えていました。その経験から『子供達に夢を与えるような教師になりたい』と志すようになりました。

ただ自分の進路を決める時期が近づくにつれ、本当に4年間の学びで自分が目指したい教師像に近づけるのか、4年では足りないのではないかなと思うようになりました。その最中に参加したのがカンボジアでの運動会を広めるプロジェクトです。そこで初めて途上国の実態を知り、恵まれていない環境の中でも一生懸命に学んでいる子供達の姿がとても印象的でした。この経験からまずは途上国の子供達に対して自分が今までやってきた事を伝えたいと思いました。カンボジアから帰国後、こういった活動が出来る道を探す中で青年海外協力隊を知り、応募に至りました。

活動している国、地域、気候や文化の紹介

私が活動しているネパールのゴルカという町は、首都カトマンズからバスで4～5時間西に行った場所にあります。ここは昔のネパールを牽引していた王朝があった場所です。その為、町を歩くとネパールの修学旅行生や欧米人の観光客に出会います。つまり歴史と文化が沢山ある町です。驚いた事としてネパールには日本のような四季はなく、雨季と乾季しかありません。その為、気候や体温が適したのか12月には桜の花が咲いていました。

活動や生活について

私は現在、ゴルカの公立の小中一貫校とその敷地内にある孤児院で活動しています。この孤児院には2015年4月にゴルカを震源地として起きた地震により親や家を無くした子や育児放棄、ストリートチルドレン等の様々な背景を持つ子供達が生活しています。JICAの要請内容として孤児院で生活する子供達に対してイベントや時間を一緒に過ごす中で、彼らの心の教育の支援を期待されています。また、敷地内にある学校で教員として学校の通学生と孤児院で生活する子供達との関係構築を図る事も期待されています。その為、平日は学校教員として子供達に体育や音楽、美術等の科目を教え、放課後と休日には孤児院へ行き、子供達と時間を共にしています。

実際に数か月活動をしてみて驚く事が沢山ありました。特に学校の倉庫の中で眠っていた支援物資の数です。私の活動先には毎月何かしらのボランティア団体が訪れては物資を子供達に配布しています。勿論素晴らしい事だと思うのですが、初めてそれを受け取る側の立場で見ると『本当に子供達や学校側が欲している物を送っているのか』と疑問に感じる事があります。それは使い道がなく、行き場を失ったチョークやスポーツ用具です。ネパールでは日本のように各教室では黒板でなく、ホワイトボードを使用します。つまり、ネパールの学校環境に適応していない物資になります。私自身も使い道がない大量のチョークをどうしたらいいのか悩んでいます。また、ネパールでは日本のような情操教育は行われていません。理系や英語を教える、学ぶ事を重要視しています。その為、スポーツに触れる機会が公立の学校では中々ありません。幸いにも今回、授業を持たせて頂き子供達に対してそのスポーツ用具を使った運動を授業で行っています。ただ、私が帰国した際にまたその用具を使われなくなるのではないかと少し不安に思っているのも正直なところです。その為、この用具を使いこの様な運動が出来ると授業を行う前に同僚とリハーサルの一環で教えています。活動が始まり、まだまだですが少しでも『日本人がこんな事をやっていたな』『真似してみようか』と思えるようになれば現時点では自分なりの進歩なのではないかと考えています。実際、私が倉庫から取り出してきた用具を使って授業を行っている先生方もちらほら出てきました。嬉しい事です。気を引き締めてこれからも一歩一歩精進していきます！



写真1 授業でボール運動を行っている様子です。白熱した戦いが繰り広げられていました。



写真2 孤児院から学校へ通う生徒と。いつも学校終わりには彼らと時間を共にしています。



写真 3 孤児院の子供達と一緒にセルロティ作り(円形上のドーナツみたいな食べ物です)。



写真 4 クラス 9 の子供達が青空調理実習(ネパールの学校には家庭科室はなく、外で行うのが一般的です)この日はモモ(餃子のような食べ物)を作っていました。



写真5 『史也のカメラで撮ろうよ』と学校を飛び出し、村へ行く道中でパシャリ。